

## 発表題目：

タイ国における移民の主体的な教育の選択－タイ国北部チェンマイ県における  
タイヤイ移民第 1.5 世代および第 2 世代の高等教育への進学に着目して－

所属： 大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻博士後期課程 1 年

氏名： 朴 苑善

1200 字程度で発表内容を記載してください。

グローバル化により国境を越える人の移動が頻繁に行われるようになった今日では、多様化する社会の中で、国籍や民族の異なる人々が共存する「多文化共生」の考え方が注目されている。だが一方では、「国家」を一つの単位とする、国民、国境、国籍などといった枠組みは依然として残っており、それは時に強力な力となる。つまり、現代社会において人々のグローバルな移動は、時に認められ・推奨される一方で、「国家」が一つの排他的な単位として考えられる中では制限されるのである。四方において他国と国境を接するタイ国においてもこのような現象は顕著に見られ、国境を越えタイ国へと移り住んだ人々は今や単なる移民ではなく、タイ国を形成する一員として見なされるようになってきている。

本研究は、タイ国北部チェンマイ県におけるタイヤイ移民の第 1.5 世代および第 2 世代が、どのようにタイ社会を生きるかについて、彼らがタイ国内で享受・選択してきた教育に焦点を当て明らかにすることを目的とする。本研究で取り上げる「タイヤイ」とは、ミャンマーの行政地区であるシャン州を中心に中国雲南省西部、タイ国北部に分布するタイ系民族の一集団であり、彼らのタイ国内における総称である。とりわけ本研究では、幼少期にタイ国へ移り住んだタイヤイ移民の第 1.5 世代とタイ国内で出生した第 2 世代を主な研究対象とする。このような人々は、彼らの親世代である第 1 世代とは異なり学齢期の大半をタイ国内で過ごしており、その多くがタイ国の教育課程を修了している。

2000 年代半ば以降、タイ政府は国内に居住する全ての児童に対し、国籍の有無を問わず、就学前教育から後期中等教育までの教育を無償で提供することを保障している。移民の子どもたちの教育に関しては、現在タイ国のみならず全世界で共有される重要なテーマとして、主に国民の義務教育と定められている初等・前期中等教育が議論の中心となってきた。しかし、近年タイ国では、非タイ国籍者であるタイヤイ移民第 1.5 世代および第 2 世代が、後期中等教育修了後にタイ国の高等教育へと進学する事例が見られている。これは、高等教育の大衆化による影響のみならず、タイ国内で生まれ育ったタイヤイ移民らによる、タイ社会を生きる上での主体的な選択であると述べるができる。実際に、チェンマイ県で行ったインタビュー調査からも、20 代前半のタイヤイ移民らは自らの将来の可能性を広げる手段として高等教育への進学を決定していることが明らかになった。同時に彼らは、タイ国のみならず自身のルーツであるシャン州やミャンマーの社会・経済状況を考慮しながら、国籍や滞在資格といった自身の法的身分を見直したり、今後の職業キャリアや将来の居住地を検討したりしている。

このように、自らの意志による移動の経験を持たないタイヤイ移民第 1.5 世代および第 2 世代が、自身の背景にある複数の地域に影響されながら、ときに移動を意識した将来設計を行っている。本研究では、移民を単に国家による制限を受ける存在として捉えるのではなく、様々な制約の狭間に置かれつつも自ら取捨選択を行い将来の可能性を広げる主体として捉え、複数の社会を生きる今日の移民第 1.5 世代および第 2 世代を、当事者の視点に基づいた角度から展望する。本研究で提示するタイ国の事例をもとに、さらなるグローバル時代における国家や社会のあり方について考えたい。